

令和3年度 自己点検・自己評価報告書(概要)

学校法人 食糧学院
東京栄養食糧専門学校

大項目	自己点検・自己評価
<p>基準1 教育理念 目的・育人人材像</p>	<p>本校は「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士が持つべき基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養」を周知しているところである。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学教育を実施すべく、カリキュラムに実習・実験・演習を多く取り入れ、アクティブラーニングの推進を実施している。 ・栄養士科、管理栄養士科ともコース制を導入し、将来を見据えた専門性を磨くことができる。(栄養士科は(1)健康増進栄養系(2)医療・福祉系(3)こども・食育系(4)健康・美容系(5)食品開発系の5コース、管理栄養士科は(1)医療・福祉栄養系(2)健康・食育栄養系の2コース) <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT化へ移行するための環境整備の実施。 ・コロナの対応におけるICTの整備を行った。特徴としてICTツールをオンデマンド授業、職員間の連絡、学生の連絡で使用。その他、アンケート調査もこちらのシステムを駆使して実施している。 ・今後の課題は学生の多様化の対応。 <p>リカレント教育に相当する既卒者もいれば、その一方で学習の習熟度が低い学生も多くいるので早急に支援する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力だけではなく、充実した学生生活が送れるよう、心のケアやハラスメント防止の取組みも今後これまで以上に必要になると考えている。
<p>基準2 学校運営</p>	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき運営している。学校の組織の中で、学院本部、調理校、栄養校の部長以上が出席する学院運営会議があり、学校内では課長、科長以上が出席する栄養校の運営委員会、さらには栄養校の運営委員会から1週間後に栄養校の教職員会議を実施している。先に実施した会議での決定事項等を連絡、伝達し、その他朝、週1回の朝礼を実施し、1週間の行事等の確認、意思の疎通、決定、連絡事項を行っている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織図に沿って各種委員会や会議を踏まえ、学生本位の環境を整えられるようにしている。 ・報告・連絡・相談の徹底と、全員が同じ情報を共有することが出来るようにしている。またコミュニケーションを密に取ることで、情報の共有を図っている。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間のコミュニケーション手段の一助としてインフラの整備が進み、学校運営に対する情報の共有化が容易となる中、学院本部や広報室、キャリア支援室との連携をより密にして、更なる情報の共有化・事務処理の効率化を図っていきたい。 ・紀要委員会と並行して倫理委員会、倫理委員会動物部会を立ち上げ、企業連携に関すること、学生の卒業研究論文などで、倫理委員会を通してから作業をするように修正している。
<p>基準3 教育活動</p>	<p>職業実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、教育課程編成委員会の提言を尊重すると共に、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々刻々と変化する栄養士、管理栄養士に対するニーズに即応できるカリキュラム作成、そのプロセスにおいて教育課程編成委員会の意見を取り入れたカリキュラム編成の実施。 ・少人数クラス編成や学生との円滑なコミュニケーションが図れる担任制、また実験・実習・演習授業での少人数制グループワークで「全員参加型の教育」を実施している。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に出たときにグループワーク等で仕事を進めることも多いことから、グループワークを取り入れた授業編成に力を入れている。 ・より具体的な栄養士・管理栄養士像が思い描けるよう、実社会での企業研修である校外実習・臨地実習に重点を置いている。 ・オンデマンド、対面ではない授業をした際のアフターフォローが大事になると考えている。 <p>学生の質問等は、チャット機能を利用することで、担任に上がりやすくなっている。しかし、意見は大小それぞれあり、授業のこと、また、ある程度のプライベート面の相談もあり、それに対して担任が一つ一つ対応していくことでマンパワー不足になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(オンデマンド授業)に関しては当初、聞きづらい見づらいわかりづらいという意見が多くあったが、現在はほとんどなくなっている。学生や教職員は慣れてきて、適した授業の動画も配信されるようになった。これから、教育活動の一環として進めてきたい。

<p>基準4 教育成果</p>	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待する。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価(学生満足度)アンケートを実施し、その結果を教職員にフィードバックしている。 ・管理栄養士国家試験対策は1年次から始めているので、それが高い合格率に繋がっている。 ・就職に関しては、卒業年次に上がる前の3月から就職活動が解禁されることから、栄養士は1年次、管理栄養士科は3年次のそれぞれ後期よりキャリアデザイン講座を授業の中に組み入れて進路に関する指導をしている。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインの一環として、就職活動の流れや将来像、履歴書の作成、セルフプロモーション、面接指導や就職活動のマナーなどの指導している。 ・全国栄養士養成施設協会 栄養士実力認定試験(令和3年度 第18回)では、栄養士科は、Aランクの層が厚くなり、同時にCランクの学生は減少するという結果が出た。授業の中での復習等や実力認定試験委員会で学生の弱点科目をあげて復習したことが結果として現れたと考えている。これが継続するように努めていきたい。管理栄養士科は、学習意欲に差があり、理解度にも差が見られる。国家試験の合格率も、以前はコンスタントに90%程度であったが、低迷し、現在は、80%から90%である。アプローチとしては、来年度からは1年生、3年生の空いている時間に科目のフォローの講座や、入学者に対して算数や国語レベルの授業実施を検討している。
<p>基準5 学生支援</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全に勉学に励むことができるよう支援体制ならびに施設環境を整えている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援としてクラス担任、就職進路支援課担当教職員を中心に教職員全員で対応している。近年の学生の求人検索をはじめとする就職活動は、ICTによる活動が主流であり、進路指導室に設置されているPCを利用する機会が多くなっている。 ・経済的支援としては、各種奨学金制度をはじめ本校独自の制度として「特待生制度」「教育後援会奨学金制度」「留学生校納金減免制度」を設けている。 ・志半ばでの進路変更や経済的な理由などで中途退学する学生がいる。 ・学生相談については、担任が個別面談をするのに加え、専任カウンセラーによるカウンセリングを必要とする学生への相談対応を行うなどきめ細やかな学生対応を実施している。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の利便性を高めるためにICTルームを新設した。 ・離職者に対する中途採用システムの確立を目指す。 ・経済的な理由で、志の高い学生が中途退学していくのは無念至極である故に、学院のサポート体制を今以上に強化し、支援体制を整えていきたいと考えている。 ・就職活動に臨む学生の傾向として、栄養士科は入学時からコロナ禍の中にあり、全て我慢をしている生活で、なかなか外に出られない状況で過ごしてきた学生が多い。就職をして社会に出ることになるため対人スキル、コミュニケーション力の支援が必要である。さらに、学び直しとして国の支援を利用している既卒の学生が非常に増えている。既卒の学生は就職を希望していても、4月から働かなくてもよいと少しゆとり構えている人も多い。 <p>管理栄養士科は、3年次のときから我慢の生活となり、予定されていた夏の学外実習は学外で実施することができないまま4年生となり、就職活動が始まった。やはり例年に比べると動きが少し緩慢になったのではないかと考えている。学生はコロナ禍でオンデマンド授業などに慣れ、昨年度に比べICTを用いたものに関しては非常に取り組みやすかった学年だと感じており、積極的にICT関連に対応した学生は、今年度も早くから内定を頂いている。</p> <p>また、国家試験が近づいてくると一旦試験を優先するという理由で就職活動を中断している学生もいる。国家試験終了後、学生をフォローし、できれば年度内に、年度をまたいで就職内定をサポートしている。</p> <p>コロナ禍の影響もあり、専門分野で、管理栄養士、栄養士の資格を活かしての就職が例年よりも多い傾向が見られた。健康スイーツ研究科も5名全員の就職先が決まった。3名が飲食関係、1名は自営業、残りの1名は栄養士科を卒業した学生で、技術を活かして、保育園の分野で就職した。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を授け学生の想い・夢・希望を叶えていきたい。普通教室以外、臨床栄養学実習室、第1・第2製菓実習室、第1～第5調理実習室、生理学実験室、衛生学実験室、理化学実験室、給食経営管理センター、給食経営管理実習室(HACCP対応)、栄養教育実習室、視聴覚教室、コンピューター実習室、食品加工実習室、健康体力教育センター(多目的スタジオ・トレーニングルーム)、就職(進路)相談室、図書室、学生ホール、ICTルーム、多目的ホールなどを備えている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内環境について、校内のLED工事を順次進めている(普通教室は対応済)。 ・ICTルーム(個室あり)を設置し静かな空間内で就職活動が可能となった。 ・防災(地震と火災)訓練を年2回実施し、防災に対する心構えや体制の整備を行っている。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の椅子のリニューアルをすることで快適な環境で授業を取り組めるようにした。 ・Wi-fi環境の拡大およびタブレット無料充電コーナーを設置した。 ・コロナ禍で多くの説明会や一次面接に関しては、ほぼオンラインで行われるという形が定着してきており、企業側もコロナが収束してもこの形は続く予測している。就職活動がコロナ禍で活動形式が変わってきたと言える。企業側としては、最後は直接会いたいと考えるようで、最終面接は対面で行っている企業もある。現状にあった就職活動をサポートしていくように努めたい。

<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>学院本部に学院広報室がある。さらに本校には教員を中心とした広報委員会が組織されており両者が協働一体で学生募集活動を実施している。学院広報室は主に学外での広報活動に従事し、高校訪問や会場ガイダンス等を実施している。一方、学内では学校広報委員会を中心に全教職員をあげてオープンキャンパスをはじめとする学生募集活動を実施している。</p> <p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学んで頂きたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励む事を望むものである。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では入学希望者に学校を知ってもらうために、オープンキャンパス(学校説明会)を年間30回以上実施している。オープンキャンパスの内容は①学校紹介、②ミニ授業体験、③施設見学、④個別相談である。参加者のレポート率も高くそれが出願に繋がっている。その他にも、学校見学、授業見学等を随時実施するなど、多様な受入態勢を整えている。また、学院本部学院広報室が関東一円をはじめ甲信越や東北地方での高校訪問や会場ガイダンスなどの広報活動を展開している。コロナ化の中、リモートやオンデマンド型でのオープンキャンパス(学校説明会)、リモートでの入試選考も実施している。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスでは保護者の来場が増えていることから、その対応や時間を厚くしている。 ・数多くオープンキャンパスを実施し、高校生だけでなく社会人の入学など門戸を広げて受け入れるようにしている。 ・コロナ化の中、来校が難しい方を対象にリモートやオンデマンド型でのオープンキャンパス(学校説明会)、リモートでの入試選考の充実を図る。 ・私たち対応する側の目線だけでなく、どのようなニーズで本校に来校されたかを把握し、専門学校らしさを全面的に出して、大学との差別化を図っていきたい。 <p>模擬授業は授業アンケートの中で評価が高い教員を中心に構成し、入試対策では分かりやすく、来校者の方々に例題を提示しながら明確な対策法をできる限り示す方法で対応していく。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の建て直しの検討も必要となっている。「充実した教育目標に即した経営基盤の強化」を達成するために、①定員の確保 ②退学率の低下に努力している。</p> <p>・令和3年度の財務情報は、現在HPで公表中である。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の部分で不足しているところを、施設貸出などで補っている。 ・経費として実験実習・授業、次いで奨学金・減免入学金・減免費、さらに光熱費の費用がかかっている。実習実験、授業に関する費用については物価・食材費等の価格高騰が懸念される。収入が悪いが経費がかかるという、スタグフレーションのような状態になっている。業者の変更、マニュアル等の変更ということで対応していく。一方でこの2年間、コロナ禍により換気をする事で、一度冷えた、温まった空気を一気に抜くという作業をするため、光熱費が上がってしまうという現状である。
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。また、ISO 14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。</p> <p>法令の中でプライバシーをどこまで守れるかということが重要である。実際にコロナ感染者が学内に発生し、出欠および公欠者の把握についてプライバシーを守りながら、週一回の朝礼またはメールで随時、共有し、学生が完治して戻ってきやすい環境づくりに配慮している。</p> <p>ハラスメント研修を受け、ハラスメント事案が起きないようにしている。学生からの授業アンケートでもハラスメント関連の苦情はみられなかった。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。</p> <p>【現状と問題点】</p> <p>本校は池尻町内会に所属しており、近隣住民を対象とした健康講話や試食会を行う「街づくり交流会」を毎年開催している。高齢化する地元住民にとって、学校や学生との交流は非常に感謝されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座としてスキルアップアカデミー講座、長寿健康ベターエイジング研究所主催の各種セミナー、講演会等を定期的に実施している。引き続き「食と健康」の情報発信源として社会から高い評価が得られるよう、より一層の努力を継続していきたい。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校をより多くの方々に知っていただくよう、社会貢献活動を通じて地域の皆様の健康増進と健康寿命延伸の一翼を担っていききたい。 ・社会貢献についてはコロナ禍で苦労している。コロナ禍の影響で外に出られなかったこともあり、表立った貢献はできなかった。空き時間の施設利用の継続に加え、世田谷区の社会福祉協議会様と共同のボランティア活動の募集等も始めている。